

ハエトリグモを狩るキマダラズアカクモバチ

さかい 境
よしあき 良朗

キマダラズアカクモバチ（ハチ目、クモバチ科）*Machaerotherix tsushimensis* Yasumatsu, 1939 は、日本固有の種で対馬を基準産地として記載された。対馬以外では本州（埼玉県）の一部からも見つかっているが極めて希少であり、埼玉県では絶滅危惧種 IA 類（CR）、環境省レッドリスト 2018 では準絶滅危惧種（NT）に指定されている。泥を使って物の隙間に壺状の巣を造り、数頭が集団でコロニーを形成するという特殊な習性を持っている。また、一時的に複数の♀が共存し、同じ巣で活動することがわかっている。（Shimizu, 2004）

クモバチは種によって狩るクモの種類がおおよそ決まっているというが、本種がハエトリグモを狩る様子を観察することができたので報告する。

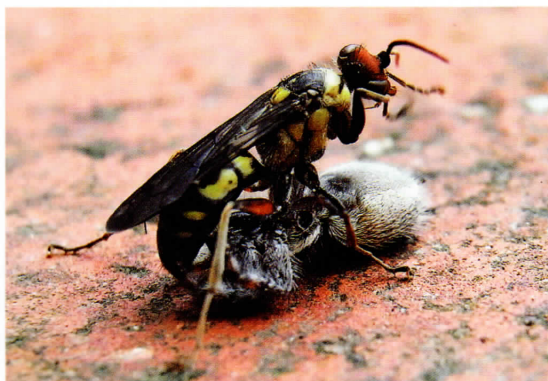


写真1. ハエトリグモの一種（シラヒゲハエトリまたはトカラハエトリ）を狩るキマダラズアカクモバチ



写真2. マミジロハエトリを狩るキマダラズアカクモバチ

- 1) シラヒゲハエトリ *Menemerus brachygnathus* (Thorell, 1887) または、トカラハエトリ *Pseudicius tokaraensis* (Bohdanowicz & Proszynski, 1987)

長崎県対馬市厳原町久田, 19. VII. 2009, 筆者撮影 (写真 1)

この2種のうちのいずれかと思われるが、背面が確認できない撮影アングルなので種を確定するのは難しいという (須黒達巳氏私信)。

- 2) マミジロハエトリ *Evarcha albaria* (L. Koch, 1878)

長崎県対馬市厳原町久田, 18. VI. 2016, 筆者撮影 (写真 2)

麻酔で動けなくなったマミジロハエトリを運んでいた。運搬の邪魔になるのか、歩脚がすべて切り落とされているのがわかる。営巣場所を確認しようと撮影しながら追跡していたが、見失ってしまった。初記録から7年後の同地での再発見となったが、かろうじて発生が継続していたと思われる。なお、本種の旧和名はキマダラズアカベッコウである。

最後になるが、本種の生態および文献などについて松本吏樹郎、清水晃、大森健治の各氏、ハエトリグモの同定については須黒達巳氏にお世話になった。記してお礼申し上げる。

○参考文献

Shimizu, A., 2004. Natural history and behavior of a Japanese parasocial spider wasp, *Machaerotherix tsushimensis* (Hymenoptera: Pompilidae). *Journal of the Kansas Entomological Society* 77(4): 383-401.